




# 平成30(2018)年度水稻生育診断予測事業速報No. 2

(早植栽培 6月8日調査結果)

平成30(2018)年6月11日

栃木県農政部経営技術課

-  **現在、生育は平年に比べ2～3日進んでいる。**
-  **茎数は平年より多く、必要茎数はおおむね確保されている。速やかに間断かん水を開始する。**
-  **イネ縞葉枯病の防除を徹底する。いもち病の発生に注意する。**

## 1 気象概況<<5月下旬～6月5日(宇都宮)>>

平均気温は5月下旬が平年より2.2℃高く、6月第1半旬は平年より2.5℃高かった。日照時間は5月下旬は平年比113%、6月第1半旬は214%と多照であり、全般に高温・多照傾向で経過した。降水量は5月下旬は平年比42%、6月第1半旬は0%であり、期間内も平年比32%と少ない状況であった。

梅雨入りは、昨年よりも1日早く、平年より2日早い6月6日であった。

## 2 調査結果<<早植栽培、品種：コシヒカリ>>

### (1) 16か所平均(表1)

草丈は高く(平年比113%)、茎数は多く(111%)、葉齢は0.4葉多く、葉色は0.3淡い。葉齢から判断して、生育は平年より2～3日進んでいると考えられる。生育診断値(葉色×茎数)は平年比103%とやや大きい。

### (2) 分施肥体系の生育(9か所)(表1、図1～2)

ア 草丈は40.4cmで平年比119%と高く、茎数は479本/m<sup>2</sup>で平年比115%と多い。

イ 葉齢は8.5葉で平年より0.7葉多く、葉齢から判断すると、生育は平年より4～5日進んでいると考えられる。葉色は4.4で平年より0.4淡い。

ウ 生育診断値(葉色×茎数)は2,101で平年比105%と大きい。

エ イネミズゾウムシの発生は3か所、イネドロオイムシは4か所で確認されているが全般に発生程度は低い。なお、イネヒメハモグリバエの発生は確認されていない。

### (3) 全量基肥体系の生育(7か所)(表1、図1～2)

ア 草丈は36.2cmで平年比105%と高く、茎数は344本/m<sup>2</sup>で平年比103%とやや多い。

イ 葉齢は8.0で、葉齢から判断すると生育は平年並であるが、地域により差が見ら

れる。葉色は4.3で平年より0.1淡い。

ウ 生育診断値（葉色×莖数）は1,472で平年並である。

エ イネミズゾウムシの発生は3か所、イネドロオイムシは4か所で確認されている。塩谷町で発生がやや多いが、全般に発生程度は低い。イネハモグリバエの発生は確認されていない。

### 3 技術対策

気象庁地球環境・海洋部発表（平成30年6月7日）の「関東甲信地方 1か月予報」（6月9日から7月8日までの天候見通し）では、“平年と同様に曇りや雨の日が多い”と予想されている。気温は平年より低い確率が40%、降水量は平年並から多い確率がそれぞれ40%、日照時間は平年並の確率が40%である。天候不順にも対応できるよう、以下の点に注意して栽培管理を行う。

#### (1) 水管理

すでに必要莖数が確保されているほ場では、速やかに間断かん水を開始し、過剰分げつにならないよう留意する。莖数が確保されていないほ場では、引き続き、夜間かん水、日中止水（浅水）とし、分げつ発生を促進する。

過繁茂になると籾数過剰、登熟低下、白未熟粒の発生、食味低下を招きやすい。また、分げつが多く莖が細くなると、倒伏を助長するため、必要莖数が確保できしだい、速やかに間断かん水に移行することが重要である。

#### (2) 加里の追肥

加里は、デンプンの生成、同化産物の移行、根の活性化に重要な働きをする。

窒素の吸収が多いと拮抗作用で加里の吸収は抑制されるため、追肥により積極的に加里濃度を高める必要がある。特に、分げつ盛期以降は加里濃度が低くなるので、出穂前40～45日頃に積極的に加里（成分で4～5 kg/10a）を追肥する。

#### (3) 病害虫の防除

##### ア イネ縞葉枯病

「平成30(2018)年度 病害虫発生予報第2号」（平成30(2018)年5月17日農業環境指導センター発表）で、イネ縞葉枯病の発生量はやや多いと予想している。また、「植物防疫ニュース（速報No.3）」（平成30(2018)年5月30日）では、ヒメトビウソカの生息密度は平年より低いものの、ヒメトビウソカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は県平均が6.7%と昨年並に高く、特に県中南部では10%を超える地点が複数確認されている。今後の気温も高いことが予想されることから、本病の発生拡大を防ぐため、地域ぐるみでのヒメトビウソカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）を実施する。

## イ いもち病（葉いもち）

BLASTAM (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2018.htm>) による葉いもち感染好適条件判定結果では、6月に入って感染好適条件が出現し始めている。常発地域、箱施用剤を使用していない地域では、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防除に努める。

なお、いもち病の防除は、発生前の予防剤（粒剤）施用が効果的である。また、いもち病の発生源となる取置き苗は早急に処分する。

## ウ ニカメイガ

農業環境指導センター調査によると、発生は平年並からやや少ないが、一部地点で発生が多い状況にある。今後の発生動向に注意し、必要に応じて防除を行う。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、  
技術対策情報が携帯電話等に直接メール配信される  
**「とちぎ農業防災メール」の御登録をお願いします！**



↑「とちぎ農業防災メール」  
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」  
仮登録はコチラから

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される  
**「栃木県防災メール」の御登録をお願いします！**

4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

乗用型トラクターの事故が最も多く発生しています！以下のことを心がけましょう。



- ・安全キャブ・フレームのある機種を使用する
- ・シートベルトとヘルメットを着用する
- ・ほ場を出る際は、ブレーキの連結ロックを確認する
- ・日没前の作業終了と、一般道走行に備え反射材を装着、点検する



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も  
万全に！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業環境指導センター

検索

CLICK!